

Law Breaker 「ルール破り」

サッカー日本代表チームの話です。オシム監督の指導の結果「臨機応変“ルール破り”浸透」してきたという刺激的とも言える表現が面白いと思います。[2人でボールをつないで攻め上がる。機を見て3人目が飛び出し連係してシュートに持ち込む]という型通り・約束通りのフォーメーションに、4人目の臨機応変の攻撃参加が超目標の好結果を生むことが多い。「ルール破り」という表現は、型通り・決められた通りのことをやっているだけでは駄目で、オシムの「ブラボー」を引き出せないのです。

以前、日本人にあったラグビー研究の過程で、民族性として、農耕生活であったことや封建制社会に根ざしたと考えられる実直に頑張るという特性は良として、個人の自由で自主的な逆転の発想を引き出し両立させることは、平素の練習からコツコツと意識し体験していかないと実戦で役立つ困難な課題でした。

4人目になるには、考えて、判断し、走って実行する3つの過程が必要です。その過程を充足発効させるには、平素の認識と練習時からの意識的行動の常態化が必要です。偶然だけでは長時間の試合に於ける数多くの場面で期待できないし、好い結果も残せないのです。

「15人のラグビー」という表現が指導上の言葉としてよく使われます。漠然としたままに、指導者の意図がプレーヤーに伝わらず、指導が不徹底になり、消化不良のままに練習中も試合においても言葉だけで、プレーヤーの意識が高まらず、殆どの場合プレーの進歩も不十分なままに終わっていることが多いです。4人目のプレーヤーに焦点を当てて、ルール破りというシビアな言い方でプレーヤーに迫ることによって目標に近づき、良い結果を引き出そうとすることは、着実な方法です。

Power & Flairの2要素については、現代ラグビーの指針として古くから説かれてきましたが、力まかせに激しく戦うことだけを強調され、flairはおろそかにされてきました。心技体の向上をはかり、策戦をたて、激しく戦う前に、個人の発想力を培いそれを行動に生かすことが重要で楽しさにも通じる大切なことなのです。

1974年のRFUのCoaching Schemeを読み直しましょう。

Will coaching stifle flair?

Bad coaching certainly will, but that is another story! Look at it this way. If a player in your side had a magnificent side-step then what you have to do is to so organize your players that the player with the side-step has the best possible opportunity of using it. It makes sense really. It is no good him side stepping all over the place wasting his energy. One side-step at the right time and then linking up go a try is much more effective.

flairは本来人間の天性のもですが、平素の生活習慣によって更に培い発展させることができます。考える判断する実行するという4つの過程をふみ、その経験の回数によって向上発展するものです。

考え判断する資料としては、

1. フィールド内の位置
2. 双方の人数とそれぞれの位置

関係があり、実行の要素としては、

3. 瞬発力と持久力
4. スタートとコースとスピード

等があげられます。1,2項の練習方法として効果的であるとされているグリッドシステムの研究と活用が絶対に必要です。3,4項については立ってプレーすることの意識と実行が必須条件です。それらについては先のコラムが研究資料として役立つと思います。

オシム監督の4人目のプレーヤーへの期待は、ラグビーの指導者がflairの原理を理解し実践することの必要性を改めて再確認させてくれるものです。それは、指導者とプレーヤーだけでなく、観客にとってもラグビーを楽しむのに役立つことです。